

船舶事故調査報告書

平成23年3月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行

事故種類	沈没
発生日時	不明（平成22年1月29日 00時00分ごろ～11時08分ごろの間）
発生場所	北海道白糠町白糠漁港沖 釧路白糠港南防波堤灯台から真方位175° 14.7海里（M）付近 （概位 北緯42° 42.5′ 東経144° 06.7′）
事故調査の経過	平成22年2月1日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	漁船 第八 ^{こうふく} 幸福丸、9.7トン HK2-19827（漁船登録番号）、個人所有 14.09m（Lr）×3.48m×1.10m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数120、昭和58年4月5日 船長 男性 56歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和53年3月31日 免許証交付日 平成17年8月16日 （平成23年7月17日まで有効） 甲板員A 男性 66歳 甲板員B 男性 55歳
死傷者等	死亡 3人（船長、甲板員A及び甲板員B）
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員2人が乗り組み、白糠漁港の南方沖の漁場において、僚船7隻と共にたら刺し網漁に従事していたが、西南西風が増勢して僚船7隻が帰航したのちも操業を続け、平成22年1月29日00時00分ごろ、同漁港に入航直前の僚船と無線交信し、「間もなく揚網作業が終わる」と伝えた。 僚船7隻は、その後、海況がやや回復したため、再度、上記漁場に戻ったが、本船が見当たらず、無線での呼びかけにも応答がないことから、07時40分ごろ、所属する漁業協同組合経由で海上保安庁に通報した。 本船は、11時08分ごろ釧路白糠港南防波堤灯台から真方位175° 14.7M付近の水深約190mの海底で、捜索中の僚船の魚群探知機により沈船らしき映像として発見され、後日、サルベージ会社の水中カメラにより、船名等が確認された。

	<p>船長は平成22年7月25日に、甲板員Aは同年9月2日に、白糠町沖の海中からいずれも遺体で発見され、溺水による窒息死と検案された。甲板員Bは、発見されず、後日死亡認定により除籍された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 西南西、風力 5、視界 良好 海象：波向 西南西、波高 約2m、海水温度 約2℃</p>	
その他の事項	<p>本船は、復原性能に問題はなかった。 本船では、平成18年1月から4月の時期において、操業中に救命胴衣を着用することはなかった。 本船は、僚船が操業を見合わせる荒天下においても操業することがあった。 搜索により回収された本船の漂流物は、主に漁具類であり、本船の損傷を示す船体の破片等は発見されなかった。 本船の引き揚げ作業は実施されなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 不明 不明 本船は、西南西風が増勢して僚船が帰航する状況下、操業を続けていたものと考えられる。 本船は、白糠漁港南方沖で操業中、平成22年1月29日00時00分ごろ僚船と揚網作業を終了する旨の無線交信をし、11時08分ごろ同沖で沈船らしき映像として発見されたことから、この間において、沈没したものと考えられる。 本船は、操業中又は帰航中に沈没したものと考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。 船長及び乗組員Aの死因は、溺水による窒息死であった。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、西南西風が増勢する状況下、本船が、白糠漁港南方沖で操業中又は同漁港に向けて帰航中、沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>	